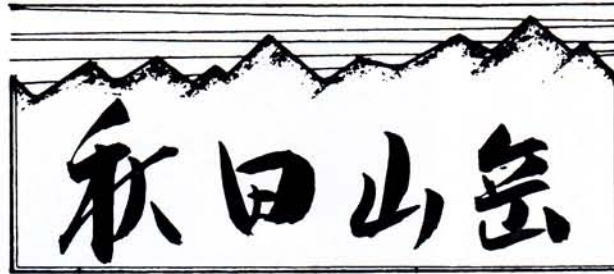


2013



平成 25 年 12 月 発行

No. 91

公益社団法人 日本山岳会秋田支部

秋田市千秋久保田町
2番23号 佐々木方

TEL・FAX 018 (833) 2525

発行者 佐々木 民 秀

編集者 鈴木 裕 子

秋の里山山行

秋の里山山行

高尾山(高尾神社)と大平薬師

鎌田 倫夫

十月二十七日(日)、集合場所の雄和市民サービスマスターには、遅れると連絡があった会員を除く十八名が、見送りに来てくれた福田委員に手を振り、九時に出発した。

前日まで台風二十七号の進路を心配していたが、降水量が少ない予報だったので決行することにした。

目的の高尾山(高尾神社)は旧雄和町(現在は秋田市)にあり、標高三八三mの里山なので、これまで支部山行として企画することがなかったが、今回は不動の滝からの登山を計画した。

登山口となっている相川地区の「不動の滝」は、国土地理院の地形図には記載されているが知名度は低い。かつてはここを経由して高尾神社への参道として利用されていたが、山頂近くを国道三四一号线が通るようになり、この参道を利用する人も減り、一時は廃道のようにになっていたが、それを数人の地元住民が散策路にしようと整備したようだ。

滝の入口で参加者二十名、全員が揃ったところで九時三十分登山開始。木の葉が色づいていて秋の深まりを感じながら、大沢川に沿って緩やかな歩道を進み、不動の滝へ着く。神社があり、一部崩壊した建物の残骸が脇に積んであった。不動の滝の少し上流にもう一つ、滝がある。

滝の入口で参加者二十名、全員が揃ったところで九時三十分登山開始。

十月二十七日(日)、集合場所の雄和市民サービスマスターには、遅れると連絡があった会員を除く十八名が、見送りに来てくれた福田委員に手を振り、九時に出発した。

前日まで台風二十七号の進路を心配していたが、降水量が少ない予報だったので決行することにした。

目的の高尾山(高尾神社)は旧雄和町(現在は秋田市)にあり、標高三八三mの里山なので、これまで支部山行として企画することがなかったが、今回は不動の滝からの登山を計画した。

登山口となっている相川地区の「不動の滝」は、国土地理院の地形図には記載されているが知名度は低い。かつてはここを経由して高尾神社への参道として利用されていたが、山頂近くを国道三四一号线が通るようになり、この参道を利用する人も減り、一時は廃道のようにになっていたが、それを数人の地元住民が散策路にしようと整備したようだ。

滝の入口で参加者二十名、全員が揃ったところで九時三十分登山開始。木の葉が色づいていて秋の深まりを感じながら、大沢川に沿って緩やかな歩道を進み、不動の滝へ着く。神社があり、一部崩壊した建物の残骸が脇に積んであった。不動の滝の少し上流にもう一つ、滝がある。



高尾神社の前で

記念撮影して鳥居のある正面に向かう。神社から長い石段を下るとそこには、かつては女人禁制の山だったという「自是不可登女」奉寄進為二世安楽子孫繁昌の碑や子供を抱いた狛犬がある。

正面の鳥居をくぐり、国道三四一号线にでる。悪路のため道が判りづらかったのだから、過去には「まぼろしの国道」と呼ばれていたこともある。

国道を由利本荘方面へ十分程進むと大平薬師への登り口に着く。緩やかな広い歩道をいくつか曲がりながら登山頂までは十分程だった。

二等三角点がある神社の正面には、強風で倒されたと思われる大木が横たわっていた。後方にも薬師尊が数多く安置されて

いる神社があり、さらに東側の参道を下ると、馬頭観音が奉られている神社と一段下に、囲炉裏付きの参籠所があった。



大平薬師の2等三角点の前で

高尾山荘に戻り、解散式を行い、次の企画にも参加することを確認しつつ、十五時三十分解散した。今回は会員外にも多数の参加があり、嬉しい。支部友としてこれからも支部事業に是非参加してもらいたいと思う。

参加者 佐々木民秀 今野昌雄

鈴木裕子 鎌田倫夫 佐藤博

高橋忠雄 石川祐子 柴田勲

佐々木長秀 佐々木悦子

安藤金栄、熊谷光子

支部友 柴田路子 佐藤満子

塚田もも子 土田芳子 高橋隆子

佐々木省三 鈴木のみ子

吉川昭子。

青森支部創立二十周年記念式典及び第二十九回東北・北海道地区集会に参加して

藤田正義

十月十二日、青森支部創立二十周年記念式典及び第二十九回東北・北海道地区集会が青森県むつ市のホテルで開催された。集会には東北・北海道はもとより、本部、首都圏、東海、関西、中国、四国などから百二十二人が参加。我が秋田支部からは十四人。地元青森からは三十六人の参加であった。

実は、下北への旅行は初めてである。下北は強い風が吹いていて、肌寒かったのが第一印象であった。

式典では、大久保勉青森支部長の挨拶や「ウエストン祭」「八甲田におけるボランティア」活動などの二十年の歩みや「白神山地ブナ再生事業」の報告がなされた。また、森武昭日本山岳会会長始め、むつ市、青森県山岳連盟、同県勤労者山岳連盟から祝辞があった。続いて、世界自然遺産に登録されてから二十年になる白神山地の「不良な杉造林地を、ブナを主とする落葉樹に再生させる」ことや「自然愛護思想の啓蒙・普及」「自然再生へのボランティア」等を進めてきた観点から、根深誠氏の「世界遺産・白神山地その後」と題した講演。目時紀朗氏の戊辰戦争における会津藩降伏と、その後陸奥へ移住させられた「斗南藩とわたし」と題した講演があった。

六時から懇親会。地元挨拶と乾杯を皮切りに、杯を片手にそれぞれが各地の方々との懇談を楽しんだ。各地から持ち寄った地酒（秋田支部は「太平山」）

は、共に銘酒(?)揃いで日本酒党には喜ばれたようだ。

支部ごとに参加者の紹介などもあり、会場を盛り上げた。最後は皆で輪になって「花は咲く」(NHK東日本大震災復興応援ソング)の大合唱を行い、一日も早い復興を願った。



青森支部から頂いたリンゴを持って

翌十三日は大尽山、縫道石山、恐山の三コースに分かれての記念山行。秋田支部全員は大尽山(八二七・七三)コースに参加した。



恐山から望む大尽山



大尽山頂上

恐山の宇曾利山湖畔から見える三角形の山である。ホテルから車で恐山近くの駐車場へ集合、参加者は五十人程。風が強く、雨模様のためここで雨具を着用。軽い準備体操と班編成を行い、午前八時出発。平坦な道を宇曾利山湖に沿って歩き約半周。全体の歩くペースは速い。山岳会の皆さんは健脚揃いらしい。雨もやみ、大平分岐で大半が雨具を脱ぎ替える。九時、大尽山登山口に到着し、緩い登りを経て一体地藏へ。安置されている一体地藏に手を合わせ、ここからヒ

バ、ブナ林を直登と斜登を繰り返しながら登ってゆく。

十一時二十分、大尽山の頂上に到着。頂上は狭く、込み合う中で岩の上に立って記念撮影。眼下に恐山が見え、虹がかかっている。台風並みの強い風と音に下北の自然の厳しさを荒々しさを肌で感じる。早々に下山。

十二時、一体地蔵まで降りて昼食を開く。ホツとする楽しいひと時である。帰路はそれぞれのペースで黙々と歩く。途中キノコを探る人も。午後二時三十分駐車場着。全員の下山を確認。身支度を整え、秋田支部の参加者はここで解散となった。

参加者 佐々木民秀 福田光子
今野昌雄 鈴木裕子 鎌田倫夫
佐藤博 鈴木美代子 石川祐子
柴田勲 佐々木長秀 佐々木悦子
藤田正義
支部友 鈴木時雄 菊地琉斗君

佐藤博 会員 三〇〇〇m峰二十一座に登頂

佐藤博会員は、八月二十八日、北アルプス・前穂高岳(三〇九〇m)に登り、国土地理院山岳標高一覧記載の三〇〇〇m峰二十一座に登頂しました。

昭和四十三年八月に最初に登った奥穂高岳(三一九〇m)から四十五年目にして完登したそうです。

全国支部懇談会 静岡大会に参加して

鈴木裕子

十月二十日(二十一日)、静岡支部主催の全国支部懇談会に参加した。二十日、JR静岡駅近くのホテルアソシア静岡の会場には、全国から集まった約二百名の会員で賑やかであった。

講演会に先立ち、久保田前静岡支部長のあいさつ、田邊静岡市長の歓迎の言葉、来賓の紹介と続いた。講演会は「日本山岳会の今昔」と題して静岡支部の長田義則永年会員が日本山岳会入会当時の懐かしい思い出等話された。

続いて「富士山におけるスラッシュ雪崩と雪崩による大量遭難事故」―富士山に特徴的な雪氷気象現象と遭難の特異性―を日本雪氷学会会員の安間荘元静岡支部長が講演。

日本で発生した七人以上の山岳遭難事故で二十一件中、五件が富士山で起きている。一九七二年、宝永山の肩からのスラッシュ雪崩により、二十一人の内生還したのは三人だったという。

続いて「富士山大量遭難その報道と波紋」と題して児玉隆平元静岡支部長の講演があった。

懇親会は大島静岡支部長、森会長の挨拶、尾上前会長の乾杯で始まった。全国から集まった会員同士が和やかに交流を深めあった。

また、来年支部懇談会が開催される埼玉支部長からは是非参加してくださいとのPRもあった。埼玉大会は十月十八日から十九日、懇親山行は両神山を予定しているとのこと。



懇親会場で森会長と

二十一日の懇親山行は、①紅葉とスラッシュ雪崩痕見学と側火山・下双子山登頂②ブナ・ナラなどの自然林の紅葉と側火山・西臼塚登頂③日本平ハイキングと久能山東照宮の見学の三コース。秋田支部は①に参加した。

心配されたお天気も回復し、静岡支部の担当者はほっとした様子。バスに乗り、新東名高速を走り、二時間かけて富士宮口新五合目登山口(二四〇〇m)に着く。ここでストレッチ、班編成、点呼の後出発。

青空のもと、黄葉が美しい樹林帯



宝永山第二火口縁から見た宝永山(右)

を抜け、宝永第二火口縁につく。宝永山が目の前ある。富士山山頂部は残念ながらガスの中。火口縁を歩き御殿庭上を目指す。唐松の黄葉が美しく幻想的。

宝永山を真上に、横に双子山を見ながらの昼食、この頃からガスがかかり始める。フジアザミが二輪、名残惜しうに咲いていた。

二ツ塚下塚(下双子山・一八〇四m)に着いた時はガスの中。山頂部にある「天照大神」の石碑の前で、安間元支部長のスラッシュ雪崩の説明があり、生還した三人のうちの一人の方が当時の状況を話された。

ガスで辺りは何も見えない中、大石茶屋を過ぎ、御殿場新五合目の広い駐車場に着く。ここからバスに乗る、静岡駅で解散した。静岡支部の皆さんありがとうございました。
参加者 佐々木民秀 鈴木裕子

太平山・前岳二手ノ又登山口にベンチを設置

十一月九日、秋田支部の公益的事業の一つとして、太平山二手ノ又登山口にベンチを設置した。
秋晴れの好天に恵まれ、参加者十一名は心地よい汗をかき、ベンチの設置作業と歩道の刈り払いを行った。



二手ノ又登山口に設置したベンチ



見つけた標柱

平成二十一年十月、「秋田支部設立五十周年記念事業」として前岳に設置した標柱は、悪質な登山者によって引き抜かれ、捨てられていたが、今回、偶然にも藪の中から見つかり、再度、前岳に設置した。

秋田支部自然保護委員堀井委員の活動

◎秋田市仁別国民の森

(東北森林管理局管理)
仁別森林博物館案内人の一員として仁別の森来館者に館内案内、自然散策、育樹作業、クラフト製作指導等を行った。
五月二十七日(日)～十月四日(日)まで十三回担当。

◎秋田市仁別植物園

(秋田市管理)
ボランティア活動
NACS-J自然観察員として来園者に植物、樹木等の説明を行った。
四月～十月までの各月一回、土・日・祝祭日。七回担当。

NACS-Jとは
NATUR (自然)
CONSERVATION (保護)
SOCIETY (協会)
OF JAPAN

◎「自然学習センターまんならめ」

(秋田市管理)
NACS-J派遣指導員として
①六月五日(水) 仁別植物園観察会
秋田市立広面小学校五年生九十五名
②四月二十八日(月) 太平山前岳登山
初心者高校生以上二十名
③六月十一日(火) 太平山前岳登山
秋田市立中通小学校三十八名

◎愛鳥週間行事

五月二十八日(火) 「愛鳥学習会」
会場・秋田自然ふれあいセンター
(秋田県自然保護課主催)
(南秋田郡五城目町)

本荘市立新山小学校 四年生 一四五名

◎自然観察会

NACS-J秋田支部の行事
四月から九月まで四回
参加者延九十五名
・高岳山早春の花々と浦城跡巡り
・岨谷峡・初夏の花々
・八幡平黒谷地湿原と蓬萊境
・鳥海山麓滝巡り等

親子で楽しむ登山

七月十一日、本会から「子どもゆめ基金」の助成を受け、「家族登山ワンキンググループ」の活動を開始する。その事業としてウエイブサイトを「親子で楽しむ山登り」を立ち上げるため、原稿作成依頼があった。締め切りが八月末の短期間であり、鈴木(総)事務局長が担当。公共交通機関が登山口まである「秋田駒ヶ岳」を選び、サイト用の原稿を作成し、八月二十九日送信した。

会務報告

◎三役会を開催

十一月六日午後一時から秋田市アルベエ市民交流センターで開催。
秋田支部組織や今後の支部運営の在り方、支部設立五十五周年事業等について話し合いをおこなった。
出席 佐々木支部長 鈴木副支部長 今野副支部長 鈴木事務局長

年次晩餐会開催

十二月七日午後六時から、東京品川プリンスホテル・アネックスタワーで開催。四六六名参加。
秋田支部出席者 佐々木民秀 福田光子 今野昌雄 鈴木裕子
記念山行(八日 高麗山・平塚市)
秋田支部参加者 佐々木民秀 今野昌雄 鈴木裕子

支部長会議

晩餐会に先立ち、午前十時三十分から同会場で開催。佐々木支部長出席
東海支部等の六支部が、活発な活動をしていることから、前もって指定されていた報告があった。特に質問する支部はなかったが、秋田支部は、会員の高齢化と人材不足、マンモス支部と小さな支部との事業を同等に考えないでほしい等の意見を述べた。
また、本会事業の「新日本三百名山」の原稿については秋田支部提出済。(提出済は四支部)

なお、鳥海山は真坂洋一会員が執筆の予定であったが、山形支部からの強い要望があり、本会・節田担当理事が調整を行い、山形支部が担当することになった。

支部会員の動向

大山孝一会員は、十二月七日に行われた年次晩餐会で永年会員に推挙されました。
大山会員は昭和三十八年九月入会にされ、本年で五十年間在籍。